

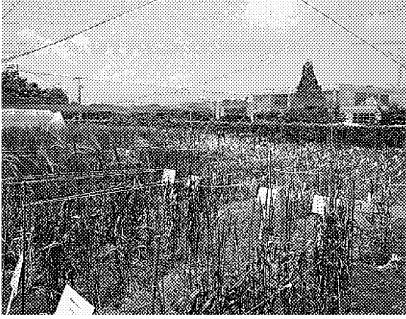
横浜市立大学は9月からアフガニスタンからの留学生の受け入れを始め

る。内戦の影響で農地が荒廃し、食糧自給の手当が急務となっているアフガンを支援するため、来日する留学生に農業技術を指導し、自国での研究開発に役立てるようになるのが狙い。アフガンへの新たな国際貢献と位置付け、政府と連携して人材育成に取り組む。

横浜市大はアフガンから日本へ持ち込んだ小麦の種子を復興に役立てようと計画。これまで現地の気候や土壤に適合した品種への改良を試みてき

## 横浜市大 留学生受け入れ

# アフガンの農業再生支援



横浜市大では500系統以上のアフガン在来の小麦を保存している

## 小麦の品種改良など伝授

た。留学生を受け入れ、こうした品種改良の技術を伝授し、アフガンの食

料自給率の向上につなげば実現は困難な状況だ。「緑の革命以後の近

くで横浜市大はアフターデ品種にはない、アフガン復興に向けた取り組みを加速させる方針。

存してい

て、アフガンの農業技術支援を強化しており、ア

性がある」(坂教授)ため、品種改良や効率的な栽培方法などを研究。この研究ノウハウを留学生が海外に大量流出させ入れることとなつたため、坂智広教授は「農業い、将来のアフガンの農業復興に役立ててもらうべきだ。

アフガンは長期の内戦で全国にあった農業試験場が破壊され、農業再生の足かせとなっていた。外務省や文部科学省は「地球規模課題対応国際科学技術協力事業」として、アフガンの農業技術

め、品種改良や効率的な栽培方法などを研究。この研究ノウハウを留学生が海外に大量流出させ入れることとなつたため、坂智広教授は「農業い、将来のアフガンの農業復興に役立ててもらうべきだ。

アフガンは长期の内戦で全国にあった農業試験場が破壊され、農業再生の足かせとなっていた。外務省や文部科学省は「地球規模課題対応国際科学技術協力事業」として、アフガンの農業技術